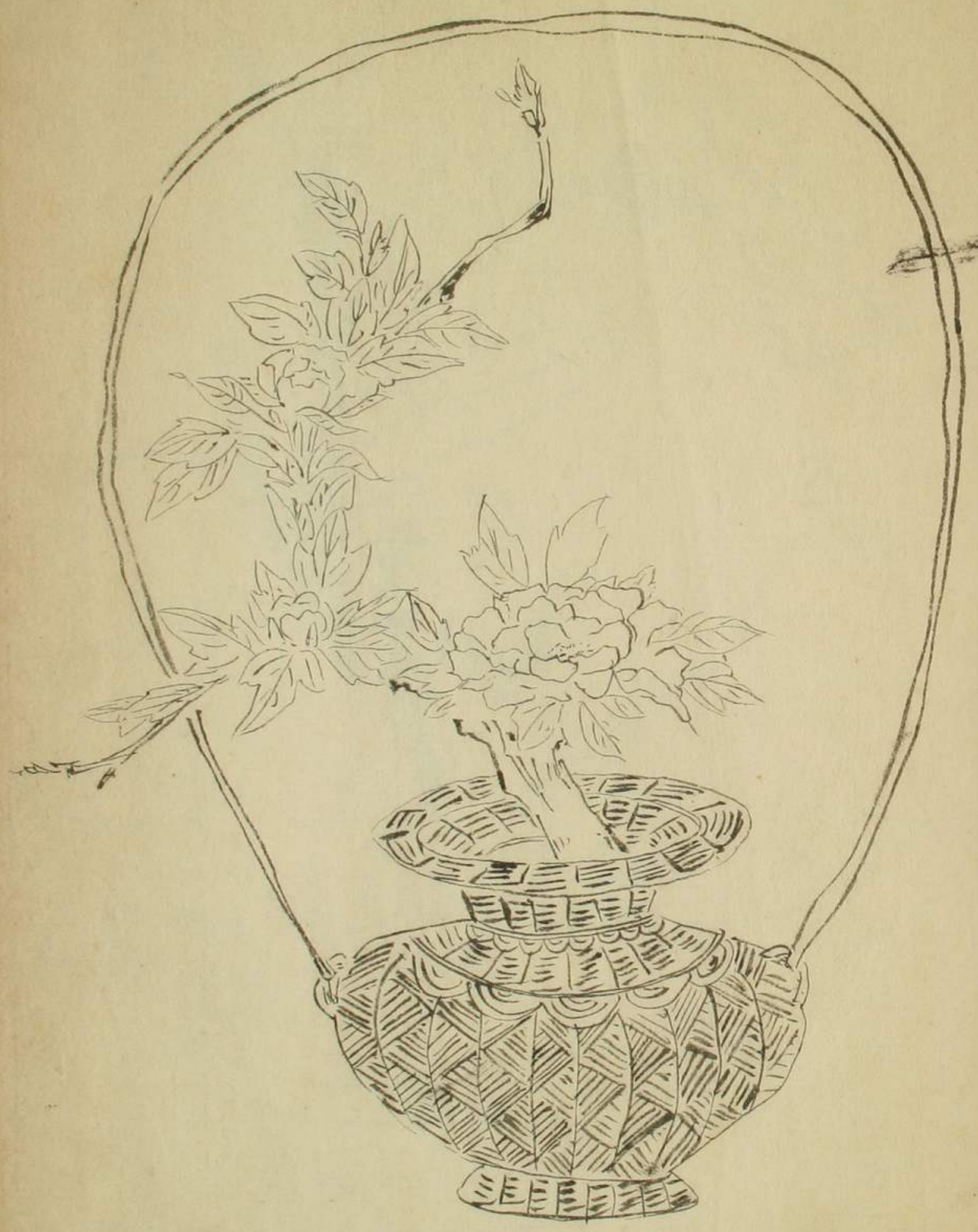


插花百瓶圖式

下

79  
3728  
2





門ヲ9  
號 3728  
卷 2

昭和九年  
七月四日  
購求

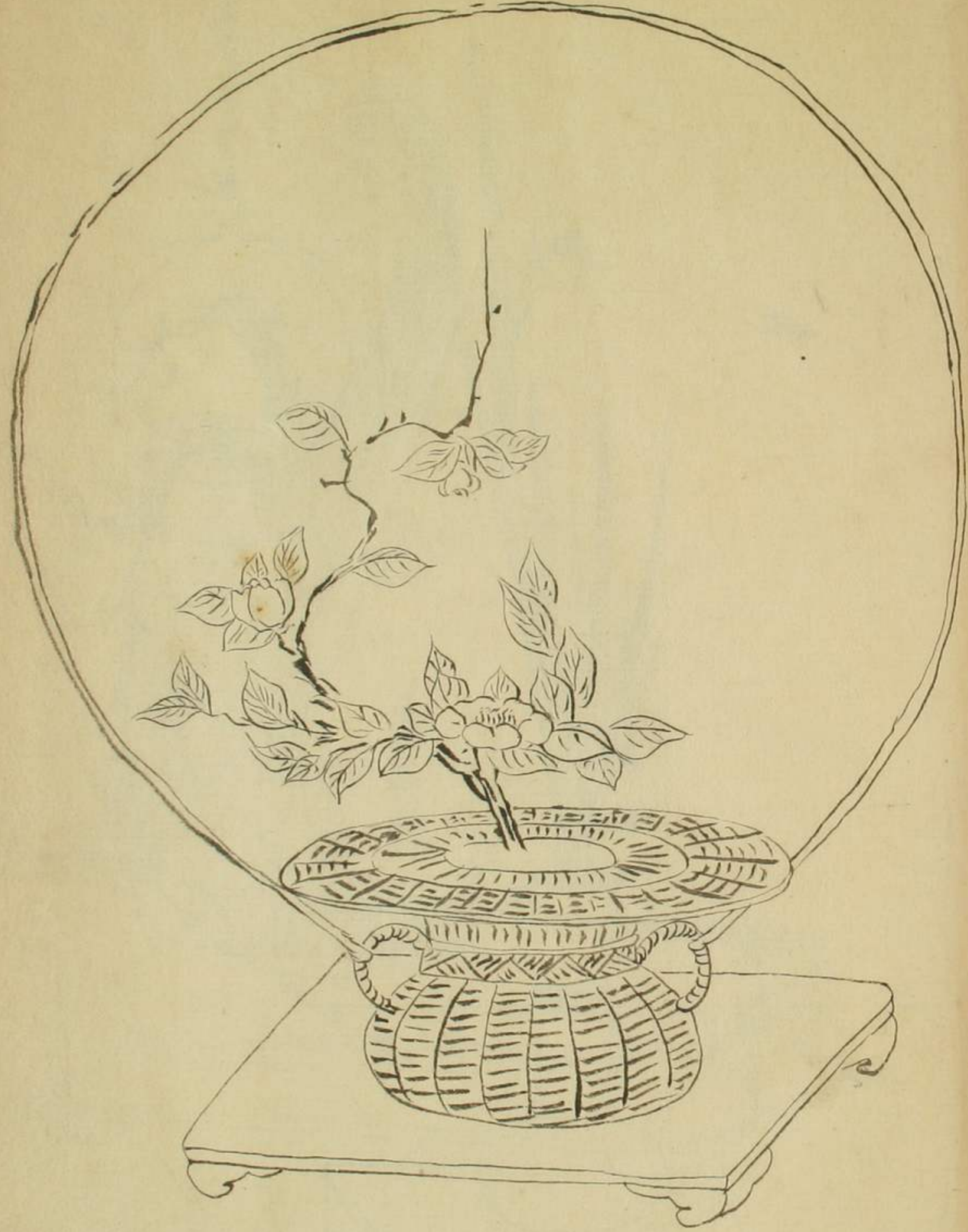
昭和九年  
七月四日  
購求



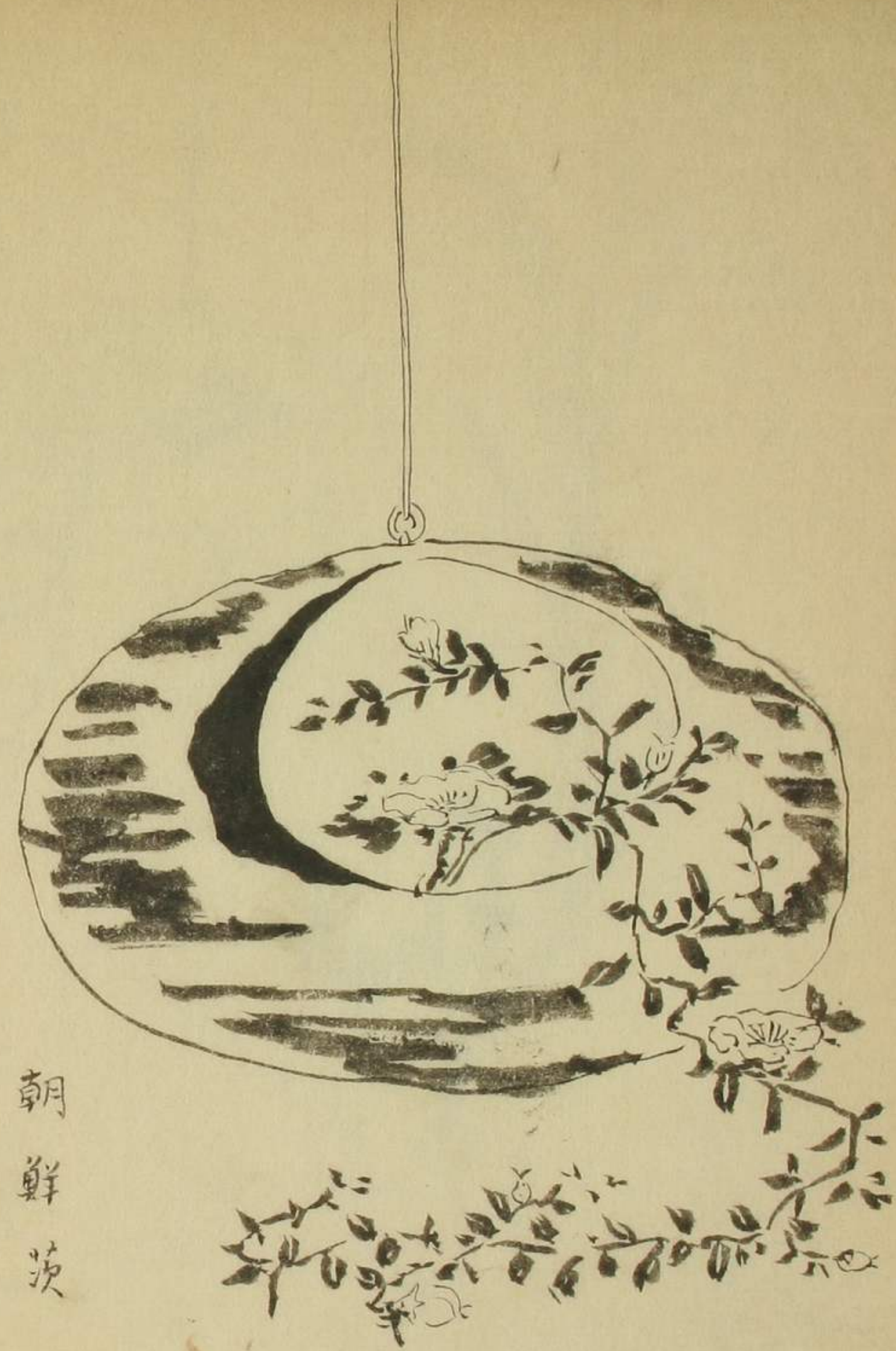
多野菊



馬菊

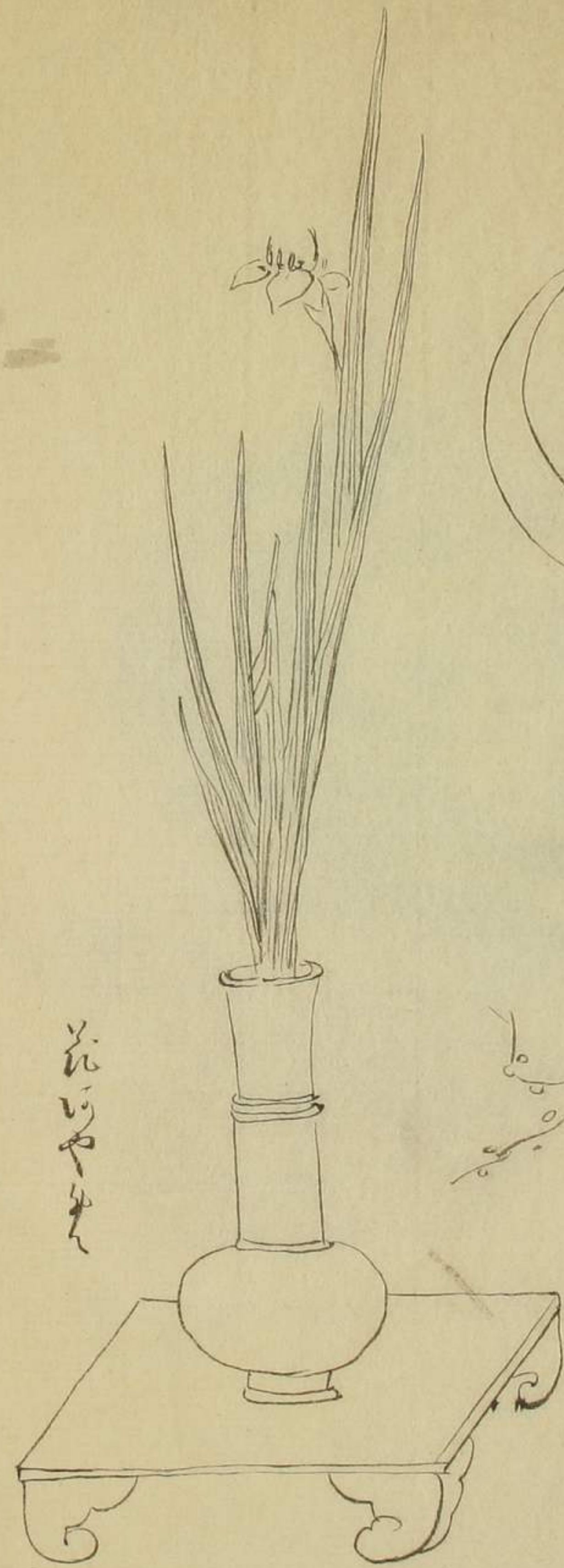


朝鮮  
茨





藜芦五株



花のやま

つるのやま



柳  
插



花  
插



杏  
桃



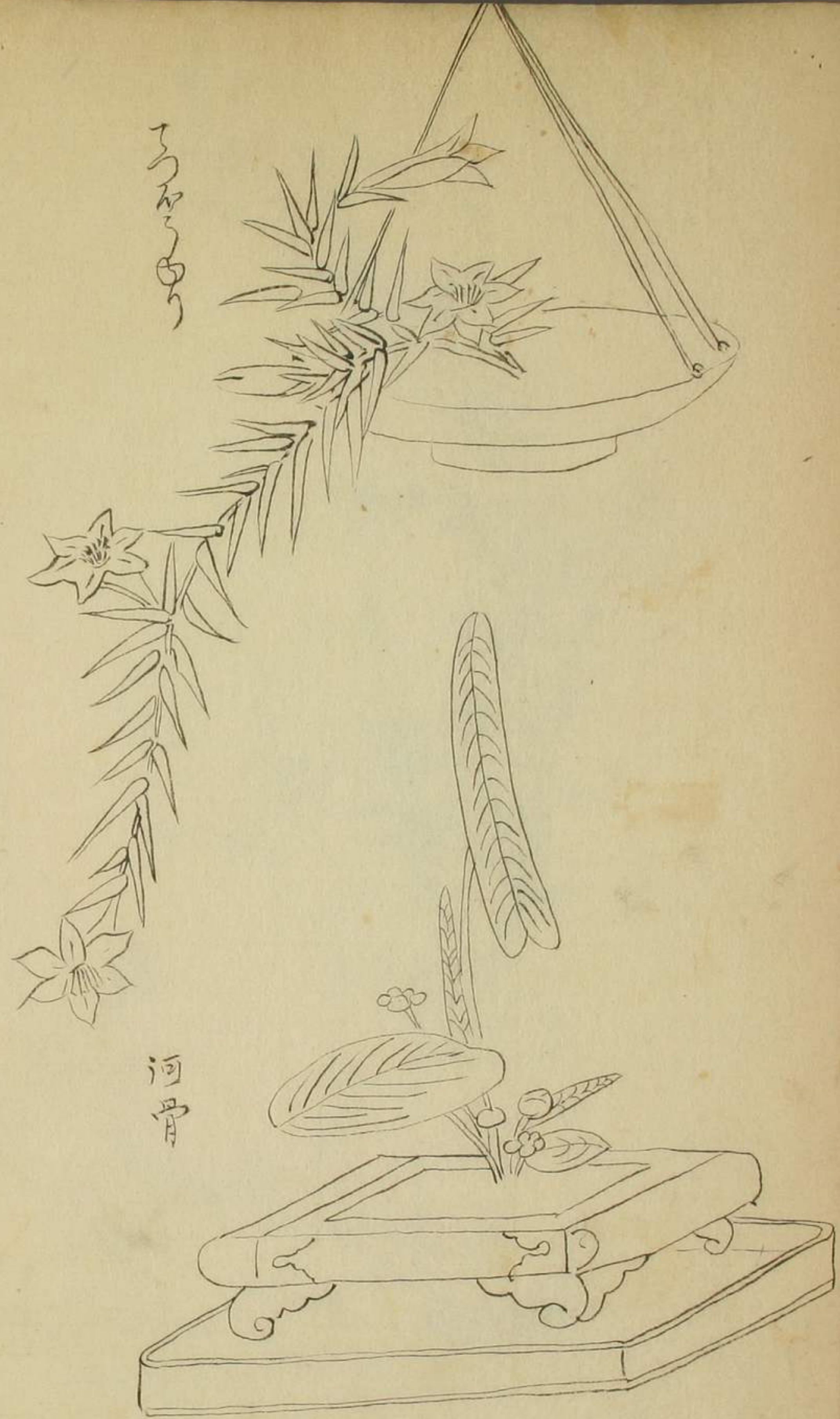
赤  
桃  
白  
桃



桔梗芍薬女郎花



糸薄小菊



つる石ころ

河骨





南瓜の花



菖蒲九枚



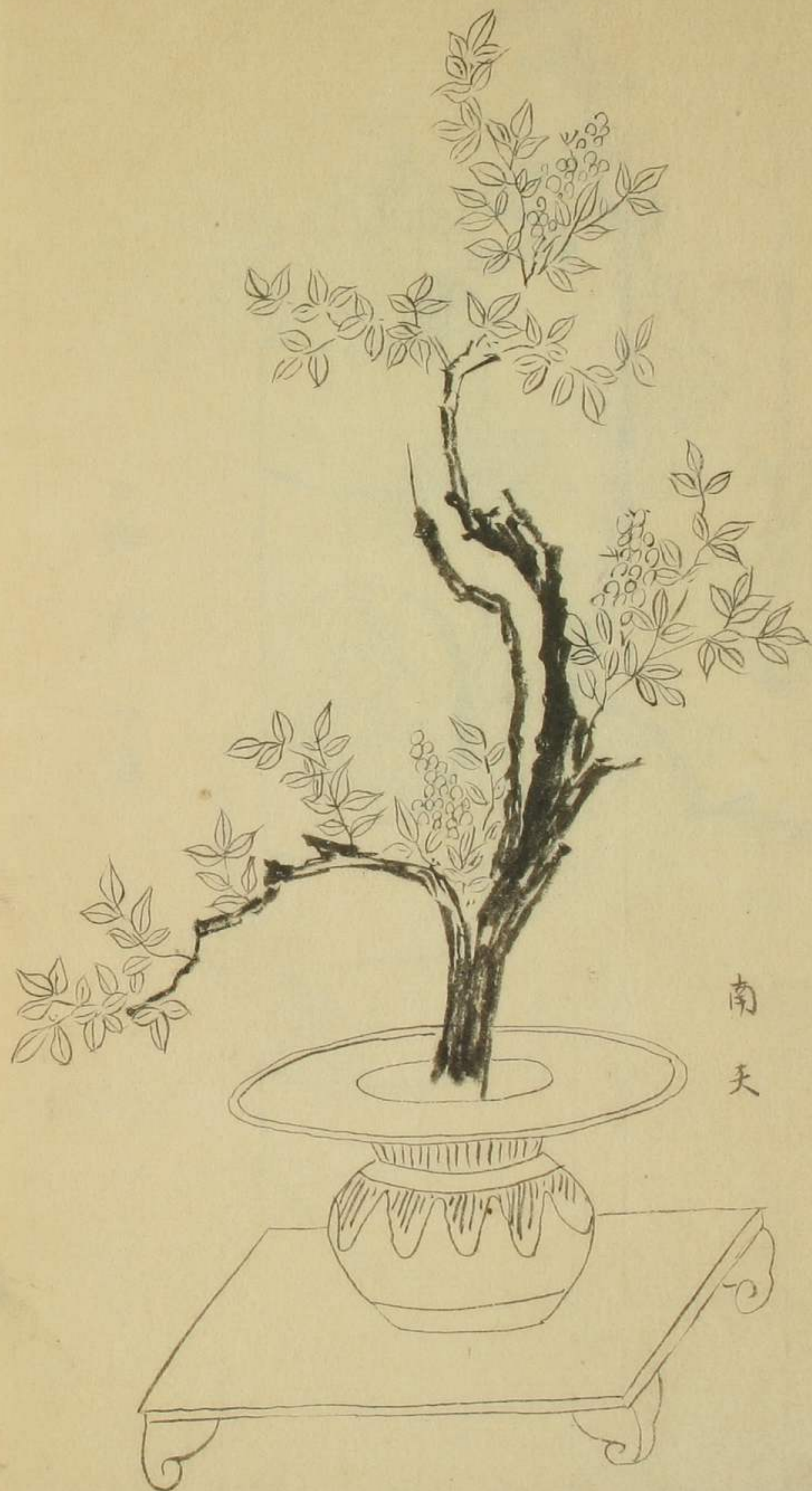
白梅  
猪  
杜若



紫陽  
花



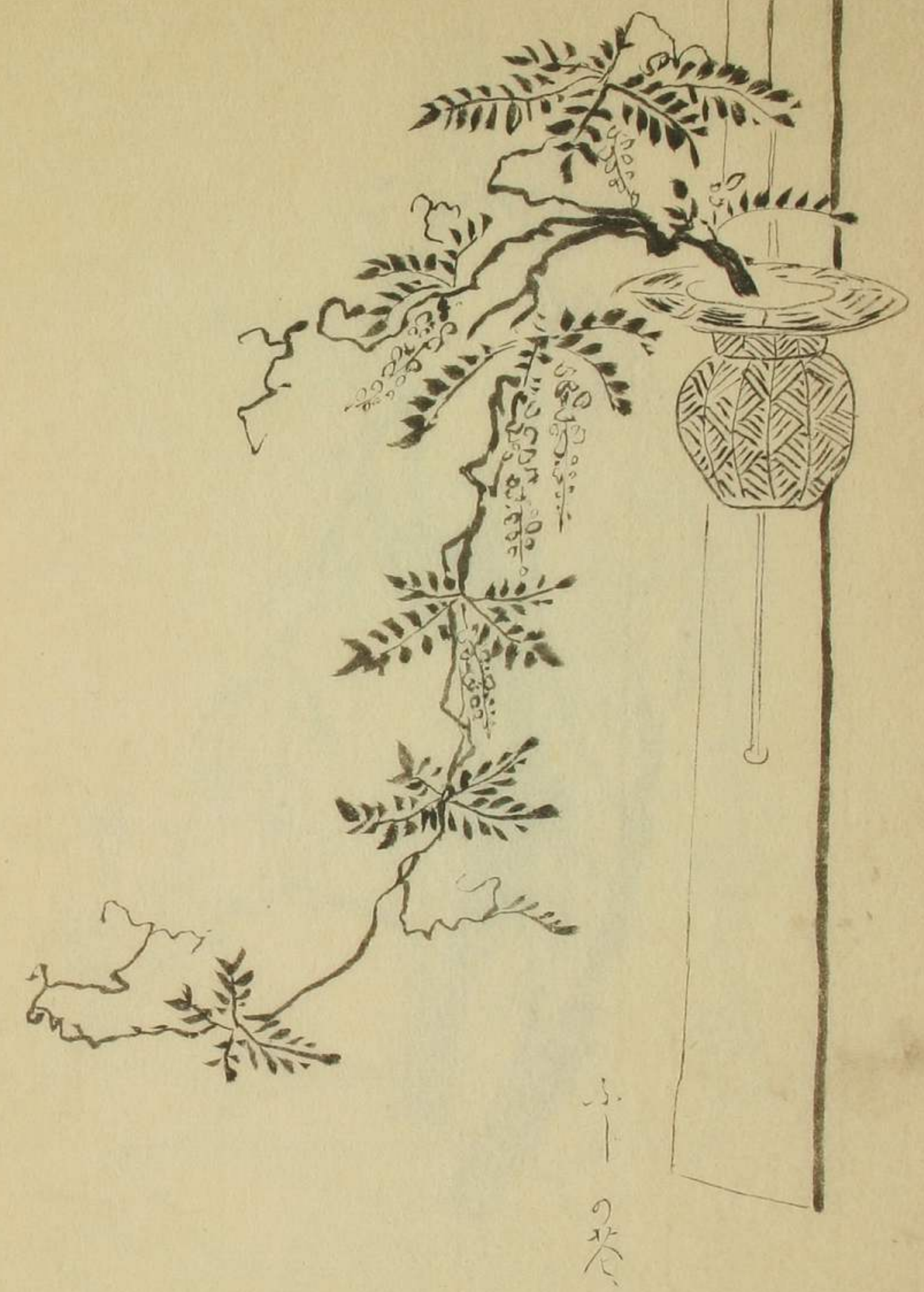
柳白梅水僊



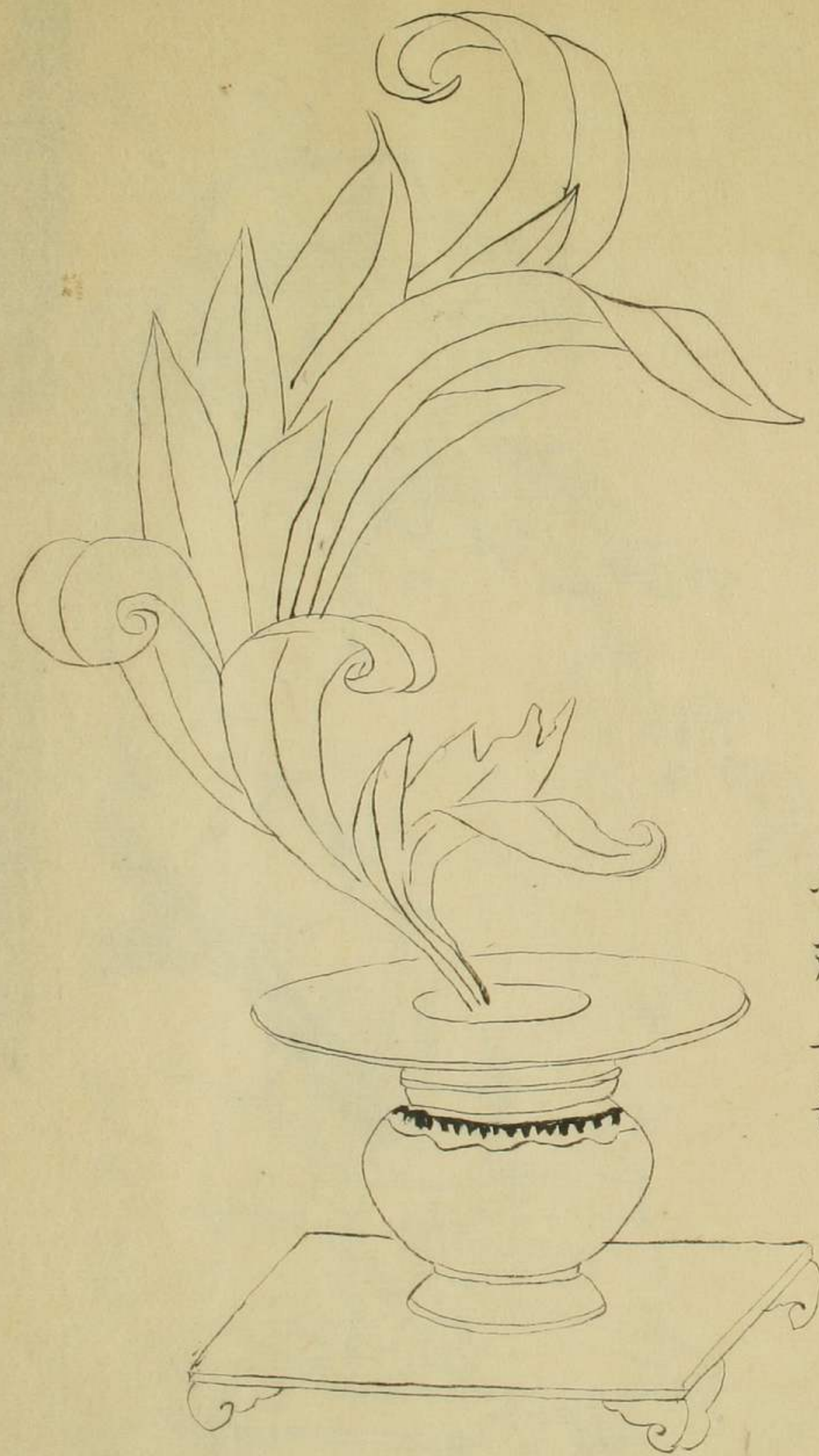
南天



鳥扇三株



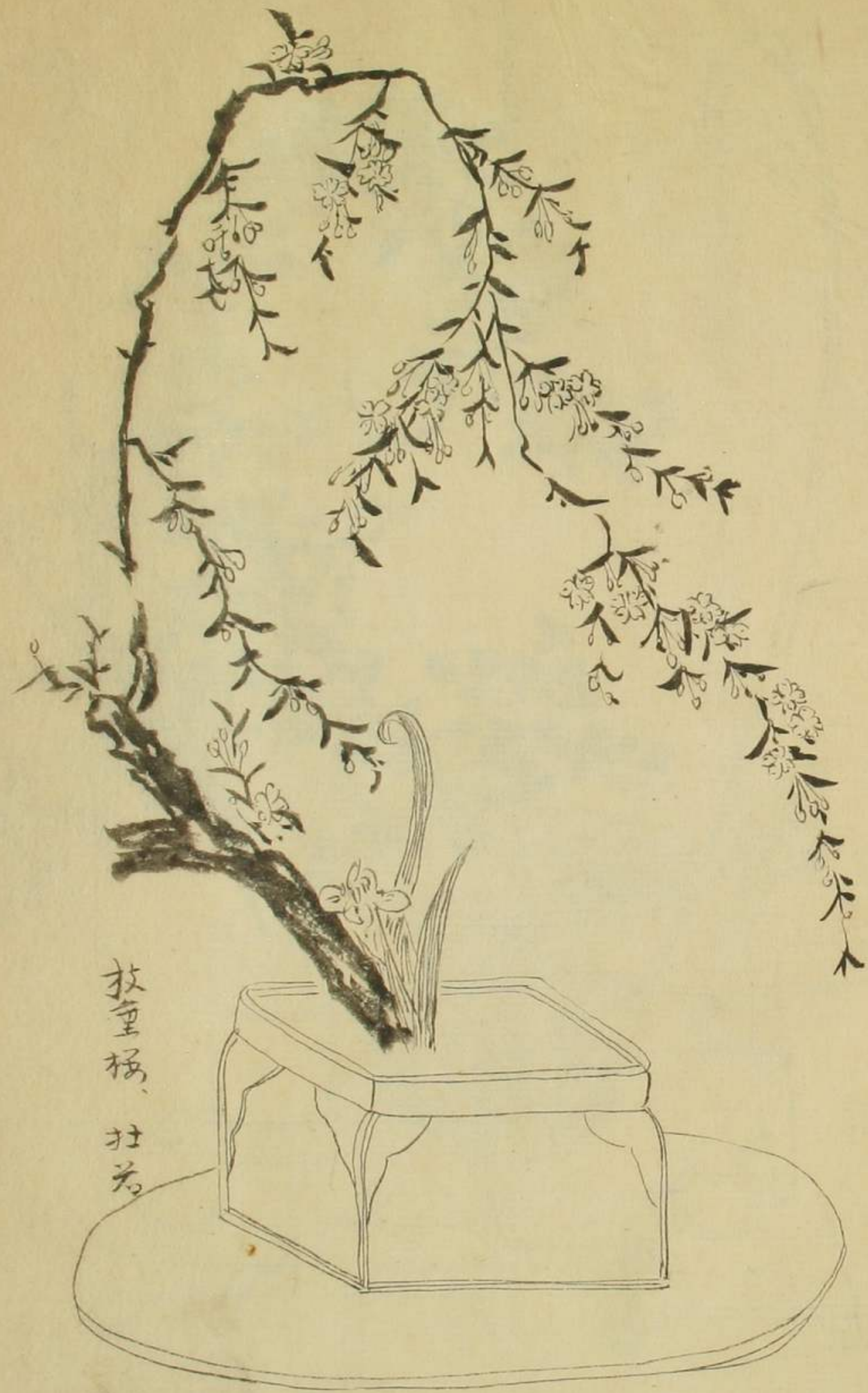
ふたのた



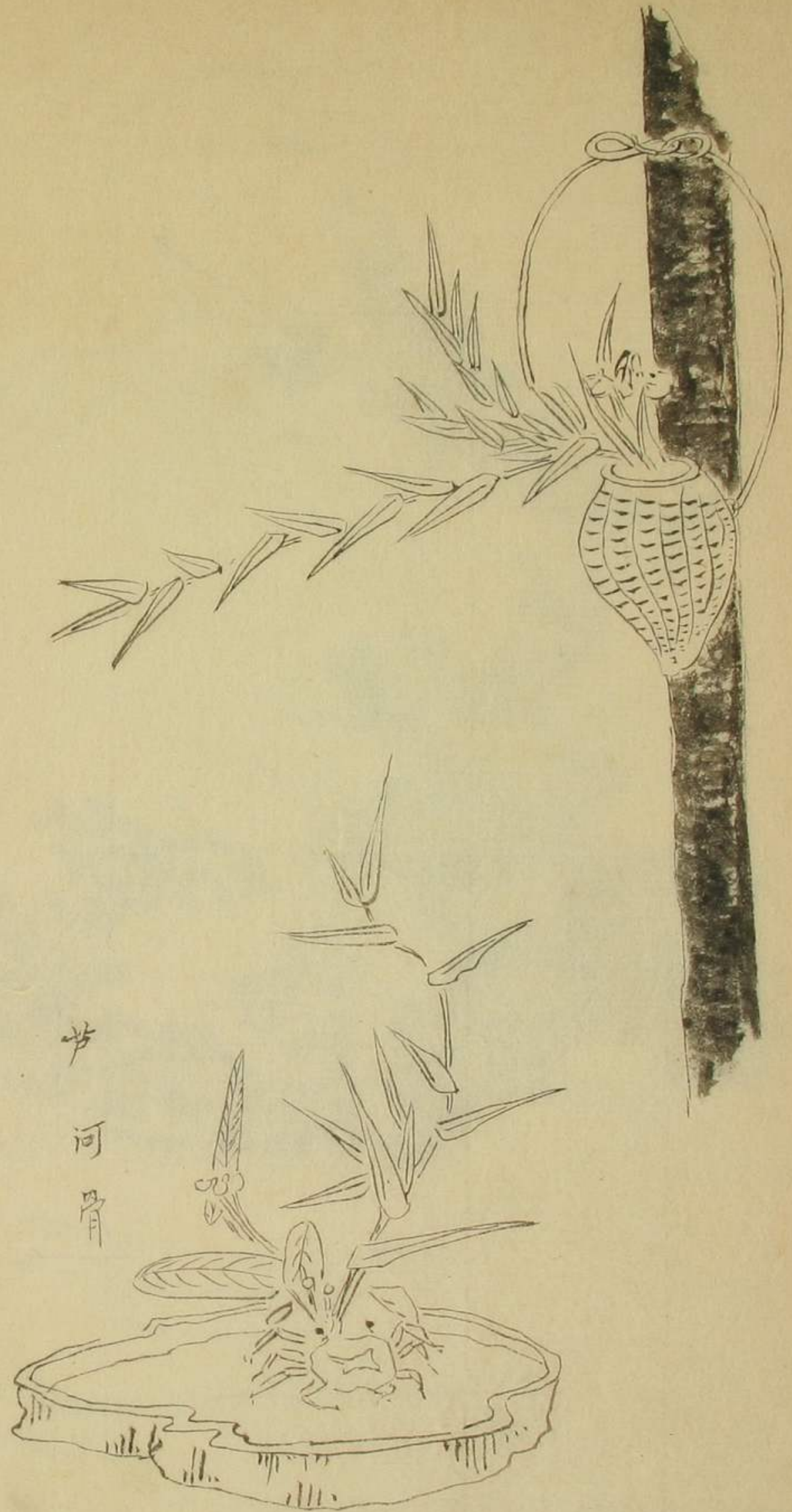
馬蘭  
十三枝



大菊  
小菊



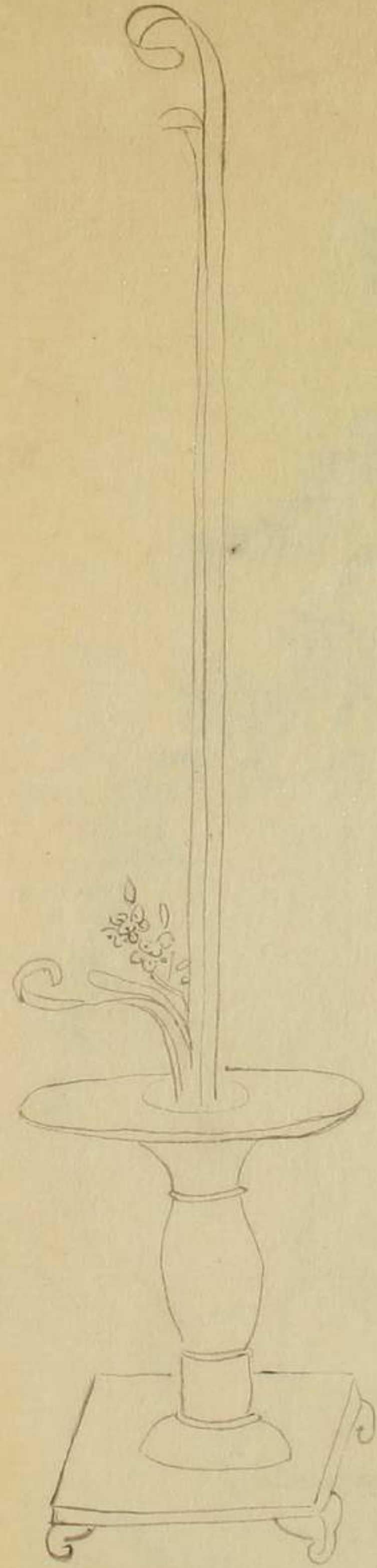
扶重極  
壯者



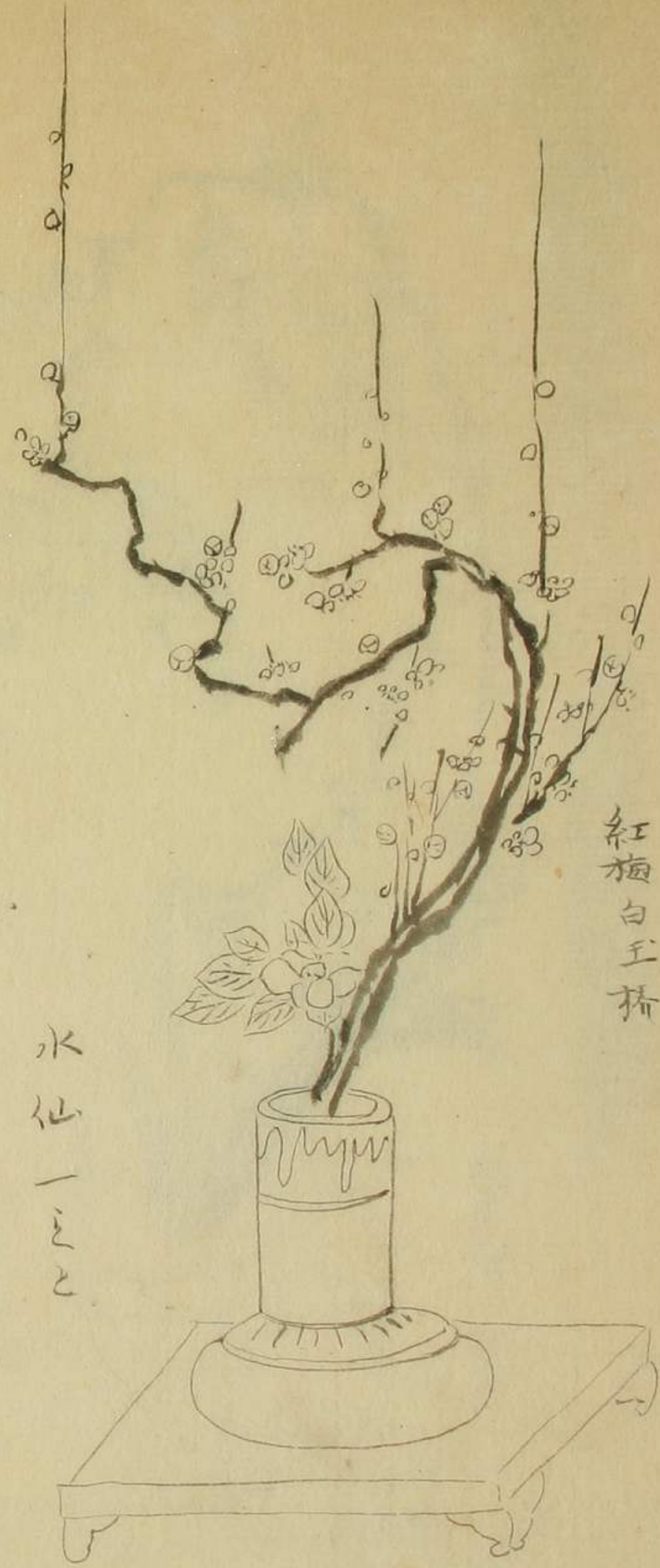
竹  
河骨



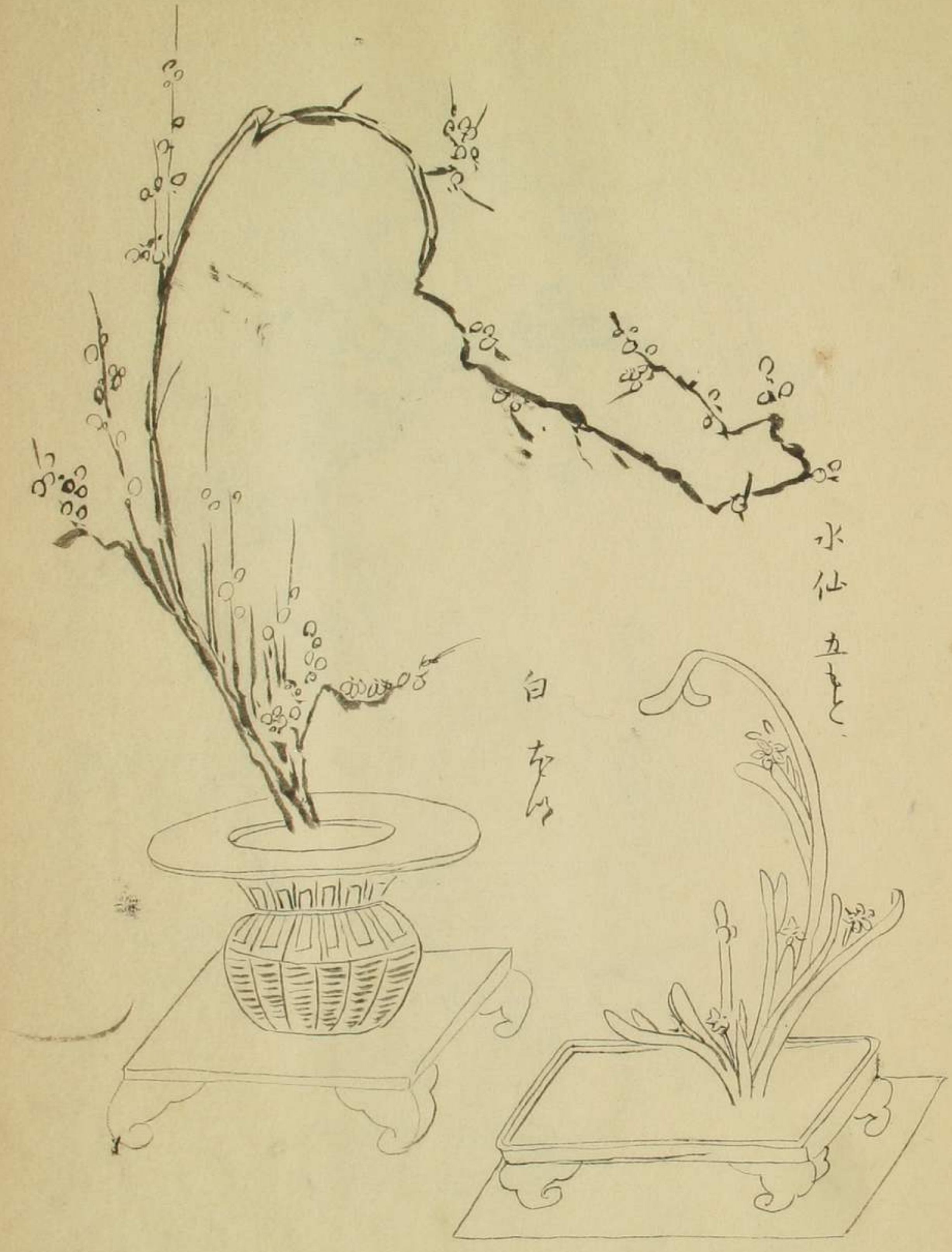
寒菊



水仙一之二



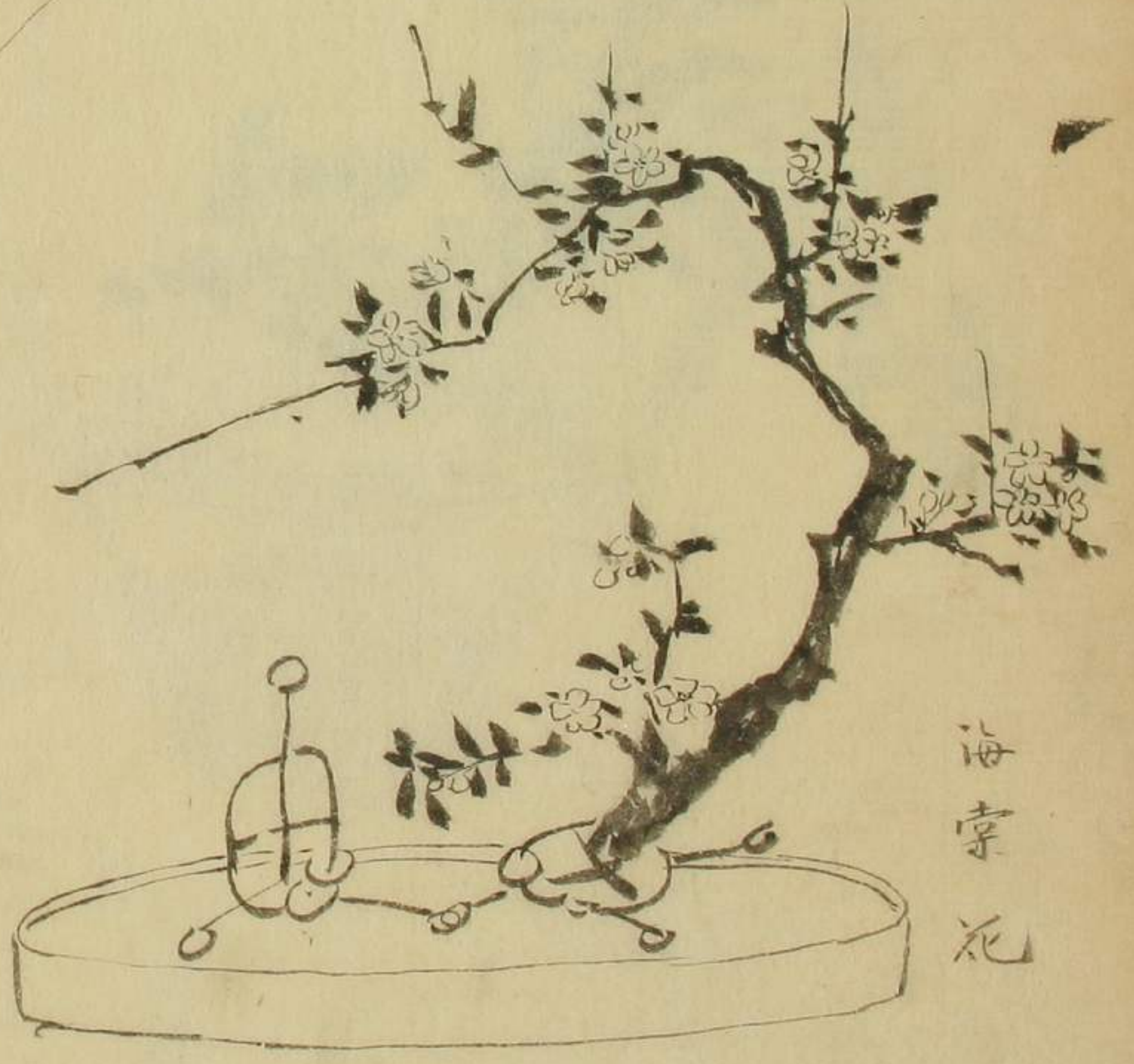
紅梅白玉橋



水仙五枝

白牡丹

馬蘭十一枝

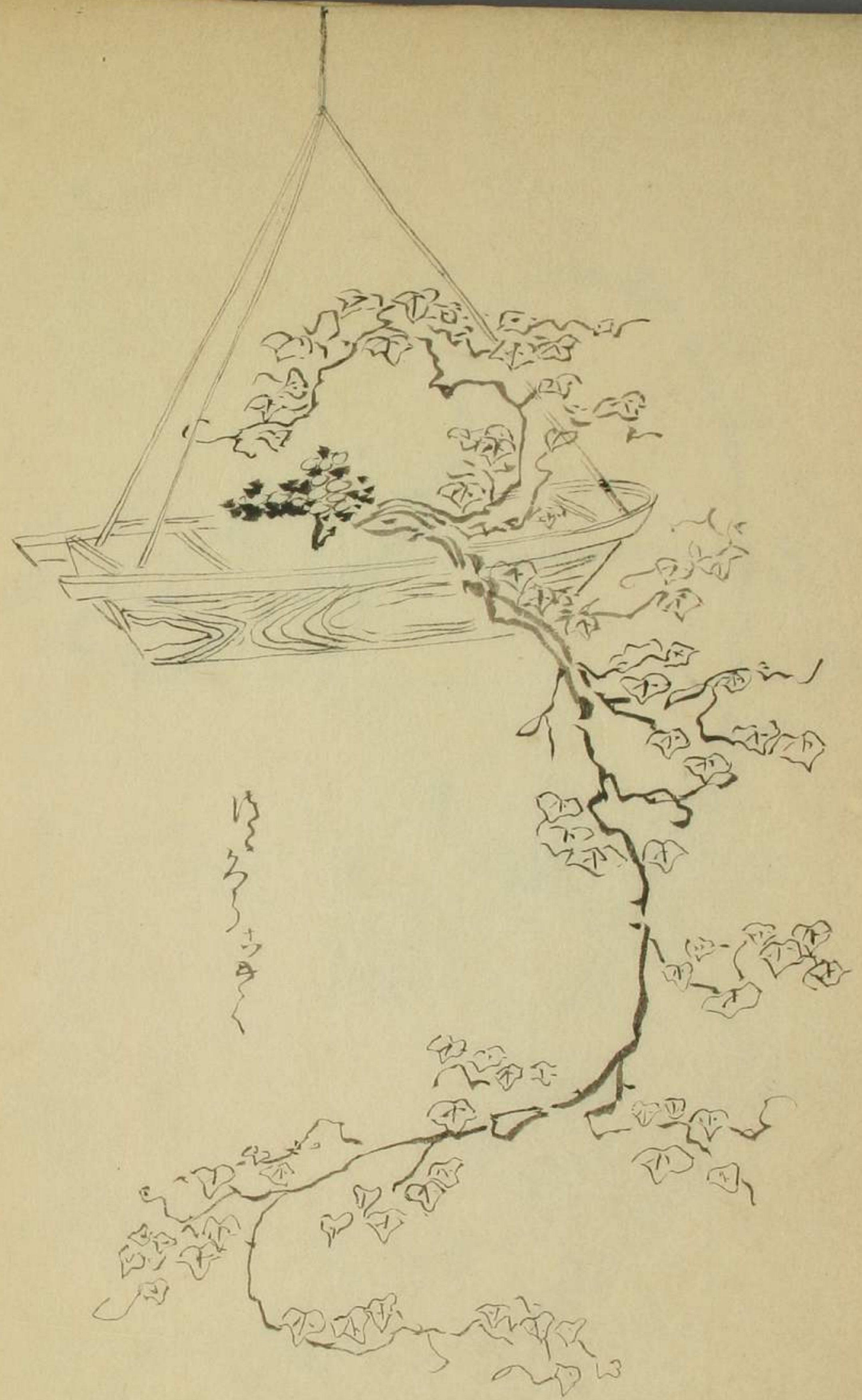


海棠花





水仙五

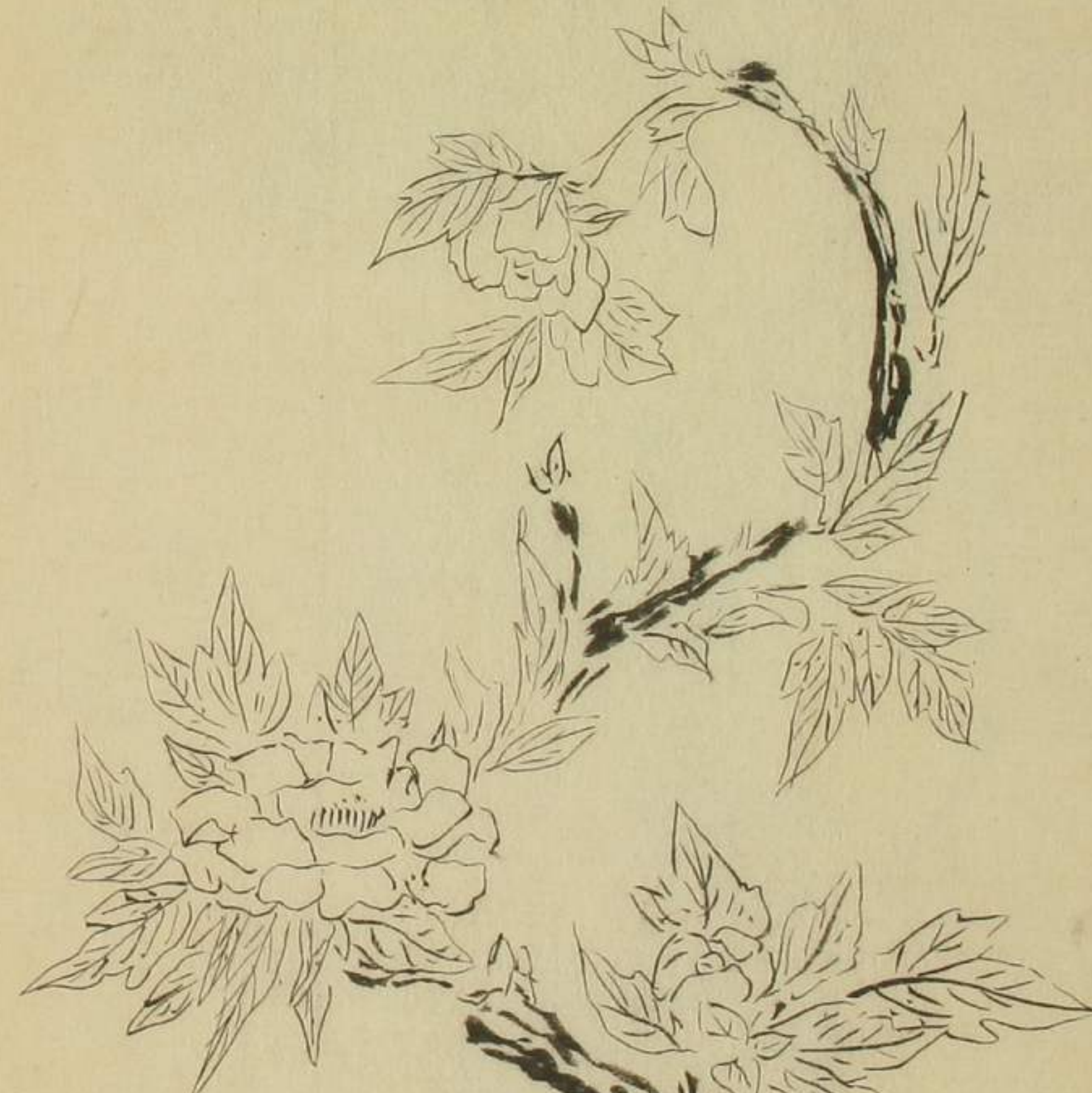
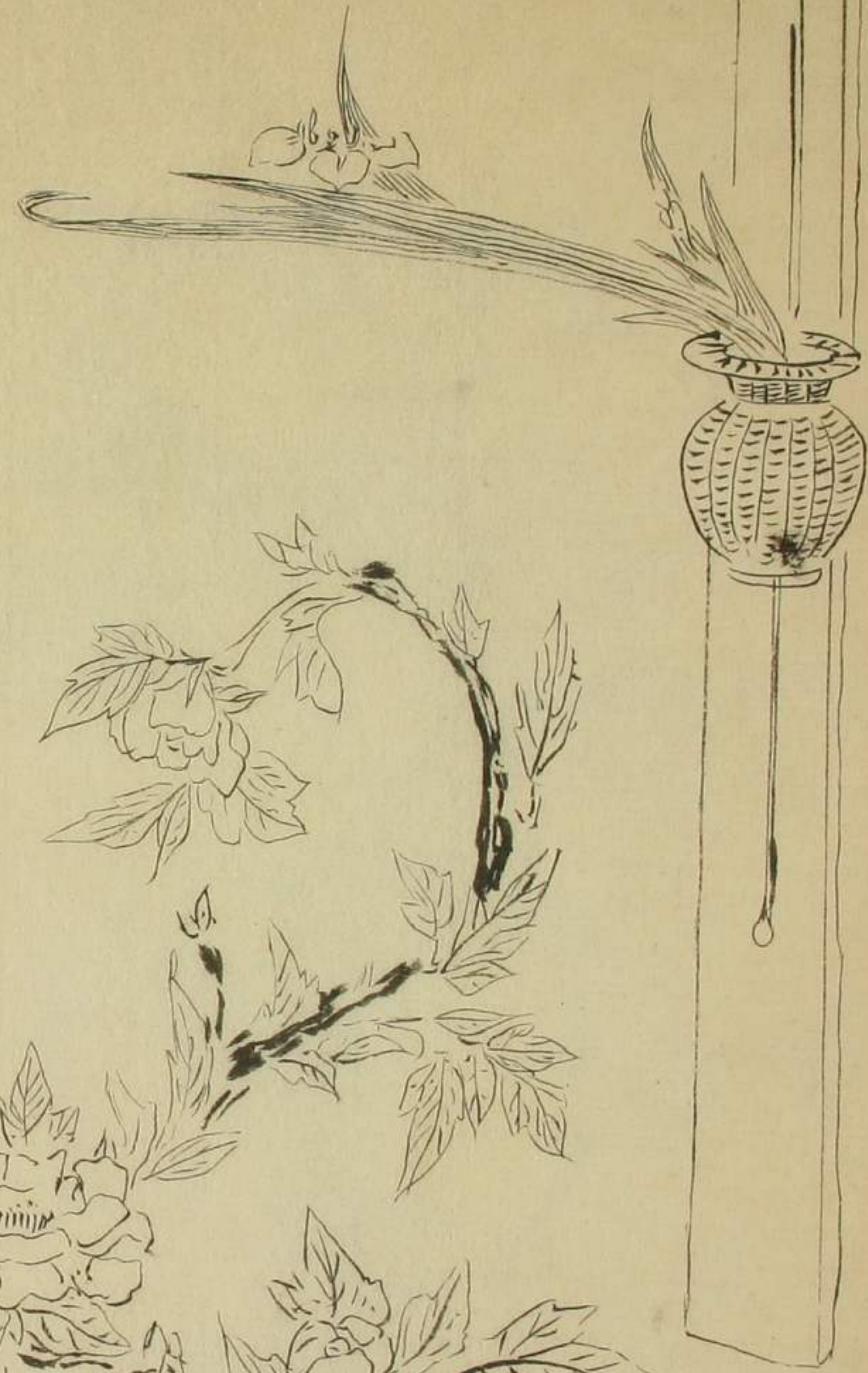


けろろろろろ

鼓子花

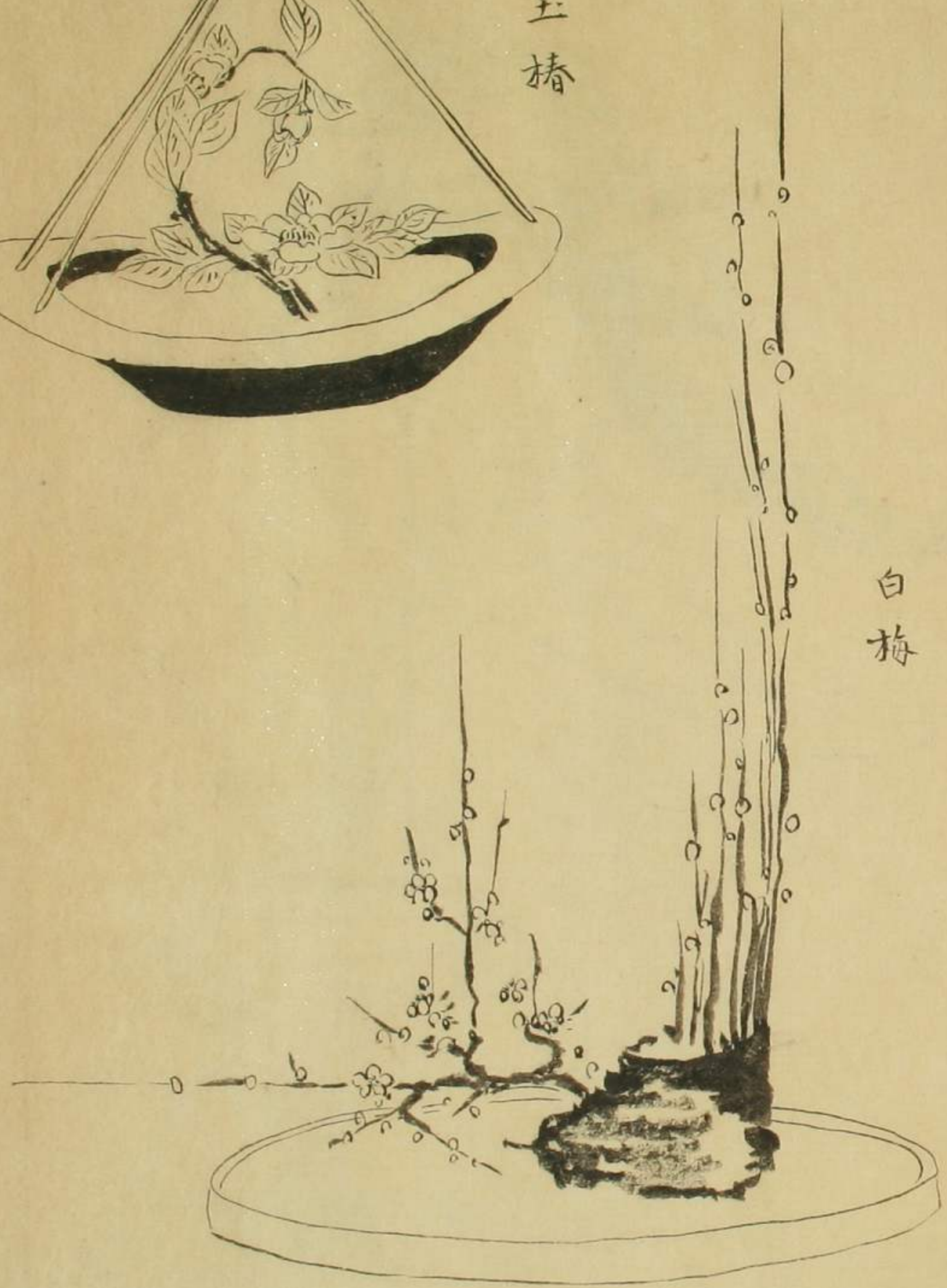


紫苑三株





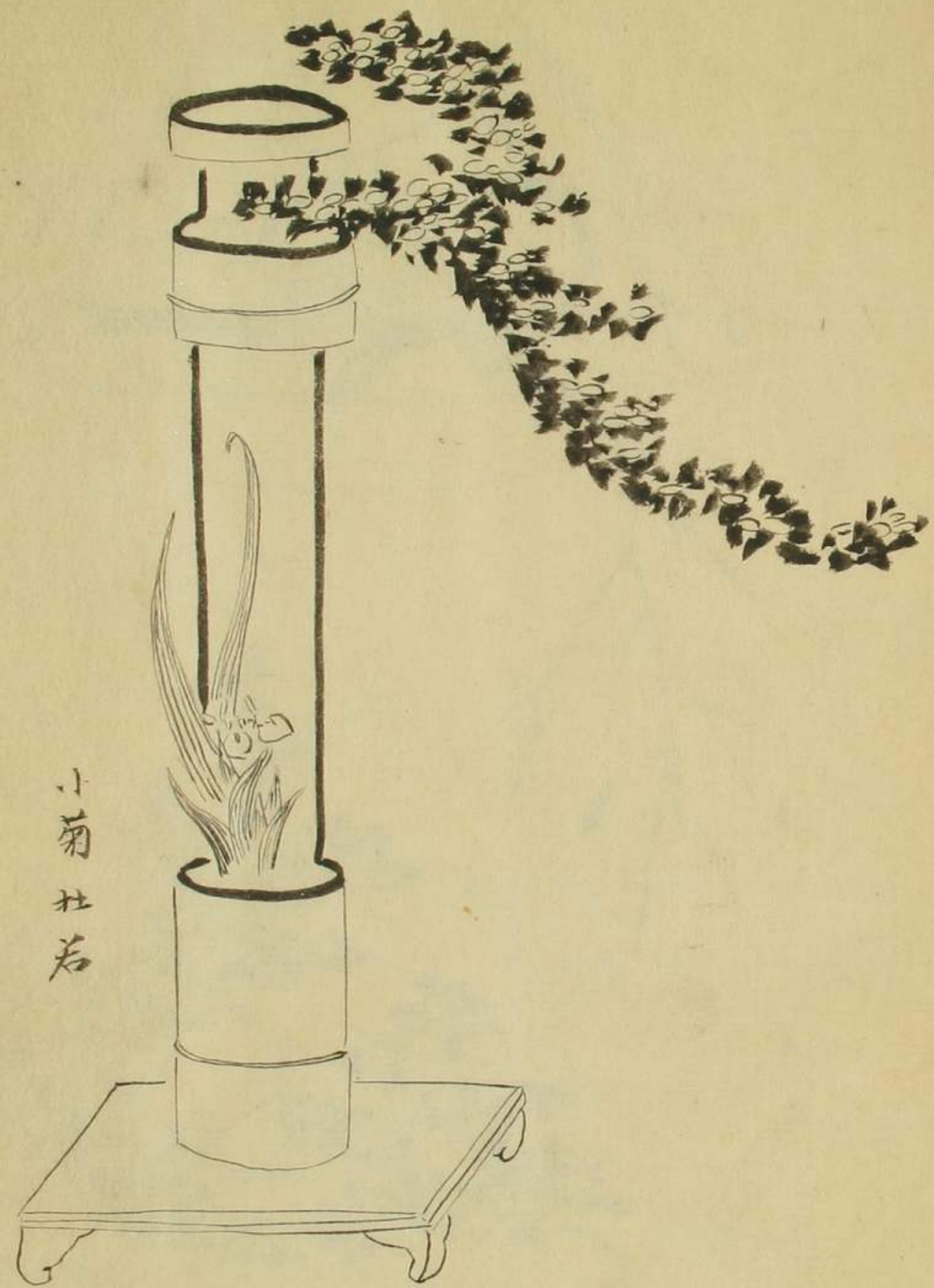
白玉椿



白梅



白梅  
花  
の  
実  
は  
丸  
い  
と  
い  
ふ  
が  
あ  
ら  
う



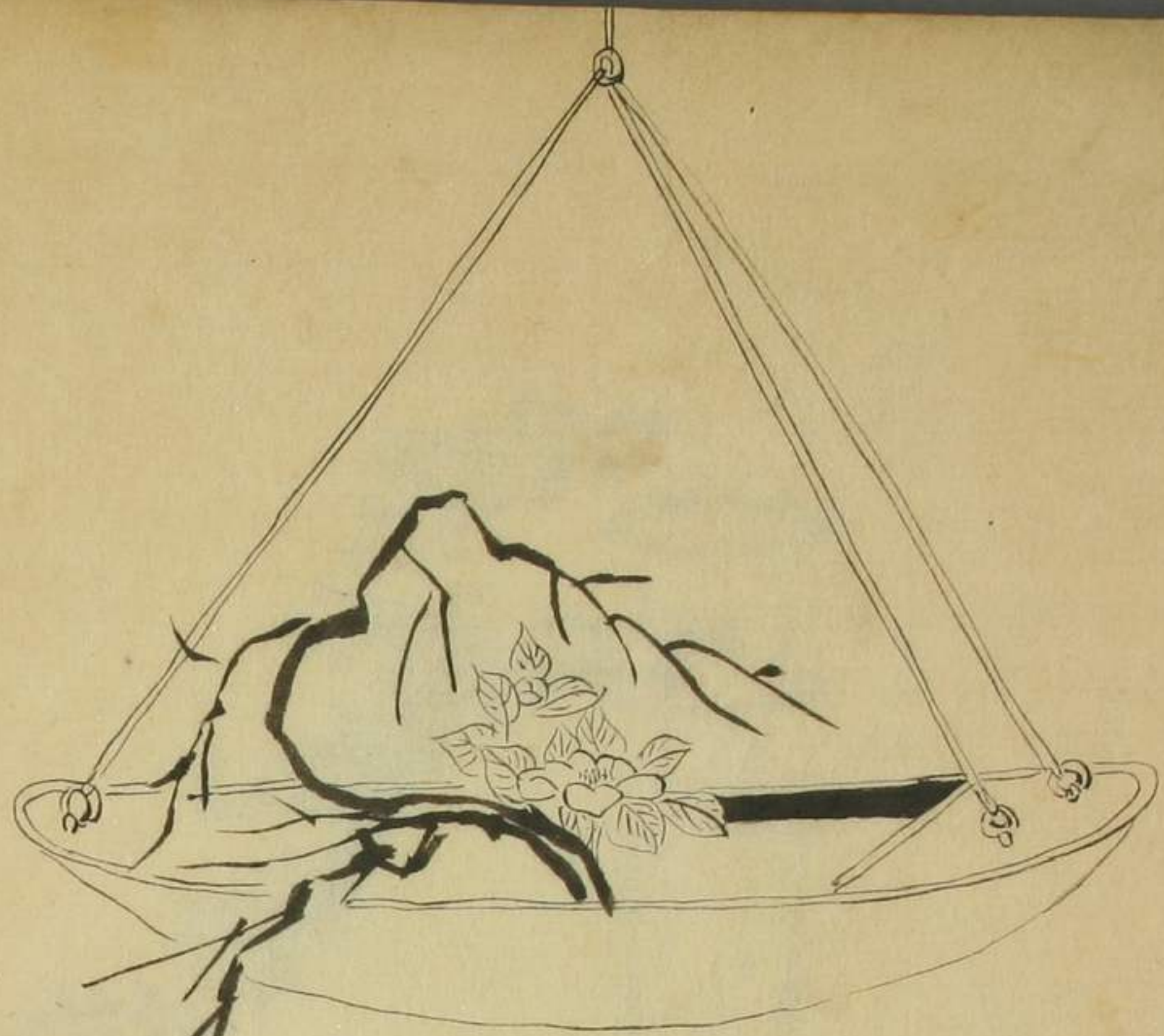
小菊杜若



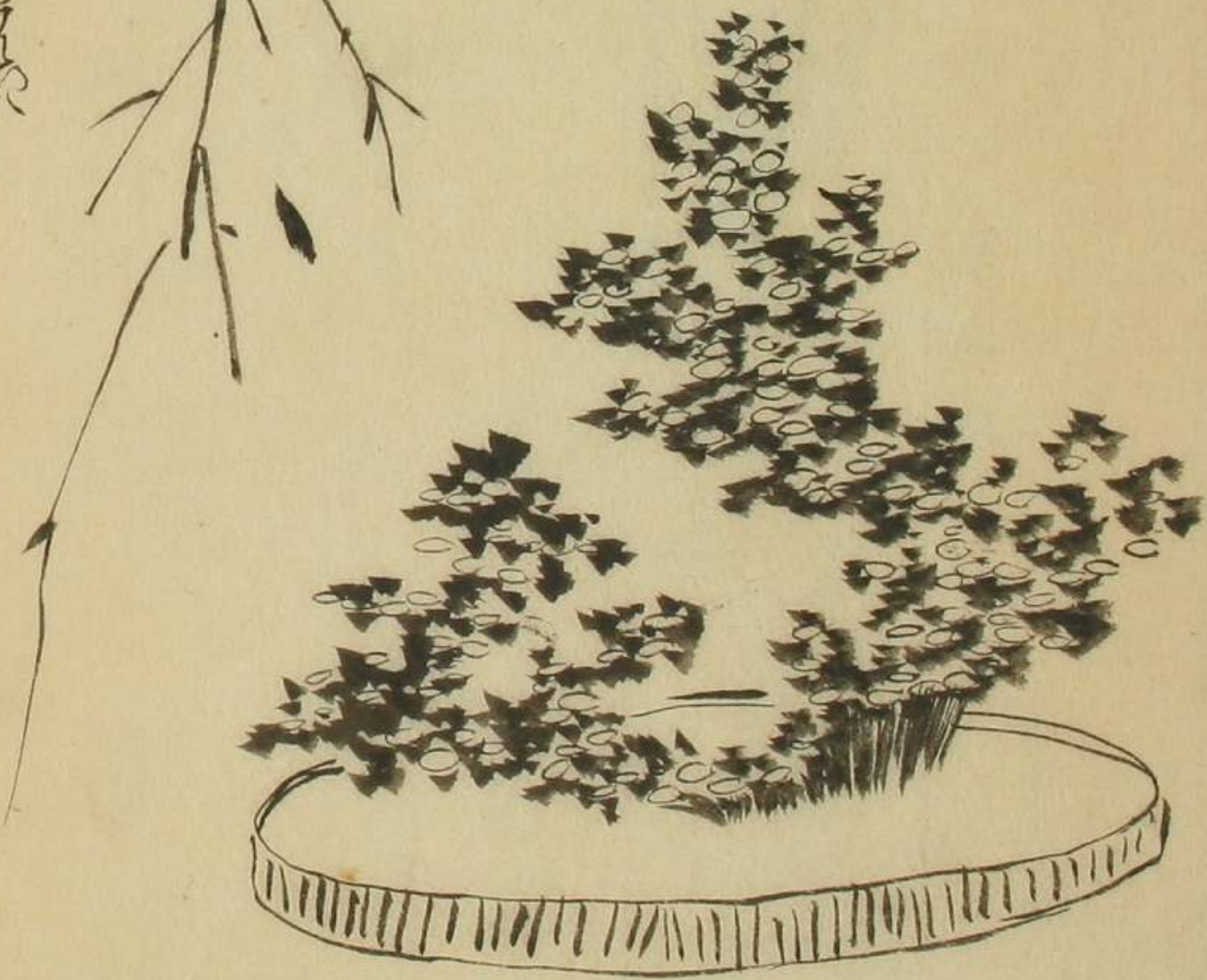
馬蘭九枚



水儼七本



やなぎ 三本



小菊



跋

唐出此瓶華々。我邦の梅花五等  
 凡華出此瓶と云ふ和漢因縁の事と云ふ  
 事あり。千草萬花天地自然の造化也  
 一々栄枯其時を違ふ。枝瓶深山  
 澤池の光景あり。變化自在を摸き  
 掛基は勢ひ。雲は起るが如く。置置  
 形も龍の目形と云ふ似たり。靈又  
 此瓶客

乃御心字のどき。席上白く佳境を  
とよみ。寛中忽ち仙都に到り。實は活花は  
風流なるべし。頃日如月庵のま。百瓶園  
を携へ来り。予み跋をくふ。之に因り。不  
日月の體備り。表裏の圖明く。みり。  
枝葉繁茂。まよふ。初山の草葉不見  
易く。世に形動く。微妙のふへ。代  
庵のま。まよふ。此道とある。まよふ。

年あけ。故春草奪乃門子遊ん。秘  
授奥と自ら究め。そ自ら社盟に結んで  
一右坊の呼ぶ。鳴呼。可謂出藍也。  
才子余と文。一鷹知己。今頻る。まよふ。  
跋と中。まよふ。戯友馬馬若乃序  
久あり。新。まよふ。筆を下。何。まよふ。  
因。まよふ。其微志。まよふ。這。此箇  
柳花百瓶園の跋。換。まよふ。爾。

維時文化五年南月

江戸市隱 游戲道人撰





